すみだ史談　第５５号
https://shidankai.wixsite.com/sumida

虎口（ココウ）の難（ナン）

会長　小木曽　清三

何とも忙しい年度末であります。温かかった冬ですが、桜が咲いた後に雪が降りました。

令和2年3月14日、震災原発事故で運休していたJR常磐線が全線で運転再開。9年ぶりに震災の不通区間は解消しました。同日、JR山手線に誕生した新駅、「高輪ゲートウェイ駅」は、山手線で30番目の駅だそうです。

令和2年3月29日、羽田空港で新ルートの運用開始。A・C滑走路に着陸し、B滑走路から離陸するといいます。問題は都心低空飛行、騒音や落下物です。中野駅付近では1140メートルの高度から降下してくるとのこと。それも2分間隔で……。

最も大変なのが新型コロナウィルス感染。令和2年3月11日、WHOのテドロス事務局長がフェーズ6のパンデミック宣言。世界で85万人の感染者、4万人の死者が出たとの話です(4月1日現在)。

コロナ関連で大相撲3月場所は初めて無観客で開催しました。NHKのテレビは放送しましたが、「無観客、いつもは聞けぬ四股の音」状態で、汗の音、すり足の音、ヒソヒソ話まで聞こえそうな、シーンと張りつめた場所でした。因みに優勝は横綱白鵬関。44回目の優勝でした。

オリンピック・パラリンピックも結局今年は無理とのことで、オリンピックの開幕は2021年7月23日、パラリンピックは2021年8月24日に決まりました。

人気コメディアンの志村けん氏(70)もコロナに罹患。令和2年3月17日に体調不良、倦怠感の症状で自宅静養していましたが、3月20日、重度の肺炎と診断され入院。3月23日、新型コロナ感染症陽性と判明、3月29日午後11時10分、逝去されたとのこと。急な症状の変化には驚かされました。

コロナ対策では、今5つの薬が見直されているといいます。①点滴レムデシベル(エボラ出血熱治療薬)、②錠剤アビガン(抗インフルエンザウイルス薬)、③錠剤カレトラ(抗HIV薬)、④吸入オルベスコ(喘息治療剤)、⑤点滴フサン(急性膵炎治療薬)。アビガンは発症6日以内に投与されれば重症化しないという症例が中国から報告されているといいます。いずれにしても6か月以内に目途がたつとの見解もあるようです。

墨田区、日本のみならず世界の人達が眼に見えない共通の相手と対決しています。迷惑がらずに共助し合う、その為には自らが健康で活力のある状態でなければなりません。みんなで心と力をあわせ、「今」をのりきりましょう。

未来の為に歴史があって、「今」を伝承することに意義があると思っています。

産業観光プラザ すみだ まち処
すみだの産業、文化、歴史、観光、グルメ情報
東京スカイツリーライセンス商品
産業観光プラザ すみだ まち処
開館時間：10:00～21:00　不定休
TEL.03-6796-6341

中等教育の学力の動向
（研究発表の補充）

高木　新太郎

1．学力の国際調査

学力調査の国際調査としては、ＴＩＭＳＳ（国際数学・理科教育動向調査）とＰＩＳＡ（学習到達度調査）が基本となる。ＴＩＭＳＳは小学４年と中学２年の理数を対象とした調査であるが、ここでは略する（「玉ノ井思潮」21号の拙稿を参照されたい）。ＰＩＳＡは、Ａ読解力・Ｂ数学的応用力・Ｃ科学的応用力の３分野で、15歳を対象に義務教育終了時点の学力を評価する。ＰＩＳＡは、ＯＥＣＤが２０００年から３年ごとに実施してきた。

ＰＩＳＡへの参加国・地域は増加し、２０００年は32であったが、２０１８年は79である。表１は日本の結果である。Ｃは２位～６位、Ｂは１位～10位、Ａは４位～15位であったから、日本の学力は高く、特にＣとＢは10位以内であった。少々劣るＡでも、２００３年と２００６年の参加国が41と57であるから、上位であった。日本がＰＩＳＡを重視した結果だが、本来は多面的な「学力」をＰＩＳＡの学力観に近づけることになった。ＰＩＳＡのＡ～Ｃの上位５国から判断すると、初期（２０００～06年）は日本・韓国・香港等と並んでフィンランド・オランダ・カナダ等もあったが、その後はアジア諸国（台湾・シンガポール等も含む）が上位にたつ。特に途中参加の中国がＡ～Ｃの３分野で首位になった（２００９、12、18年）。

2．学力と都立高校入試制度改革

学力は上位教育機関への進学と関係する。ＰＩＳＡの15歳時を念頭に都立高校入試を考える（中等教育の中間時点）。高校入試制度は変更されてきた。(a)新旧変更期（１９４８～51年）、(b)学区合同選抜（１９５２～66年）、(c)学校群制度（１９６７～81年）、(d)グループ合同選抜制度（１９８２～93年）、(e)１９９４年以後となる。(a)は新制高校となったが、旧制中学等との調整、学区設定が行われ、墨田は江東・葛飾・江戸川とともに「第六学区」となった。(b)は学区内の高校選抜である。(c)は２～３校を集めて一つの学校群を作り、各高校から各群の選択となり、群の構成が重要となる。61群は両国・墨田川・小松川、64群は江戸川・小岩だった。(d)は学区内の高校を二つのグループに分け、調査書と学力検査でグループ合格者を決定した。61グループに墨田・葛飾、62グループに江東・江戸川の各高校を配置した。(e)は大きな変更があった。１９９４年から「単独選抜制度」に移行し、〝学区外受験が認められるようになった〟（『ウィキペディア』）。２００３年に学区制度が廃止された。01年から高校を種類別に区分けした。①進学指導校と②中高一貫校で、以下に示すように両者ともいくつかのタイプに分かれる。

（①ア）進学指導重点校―01年に日比谷・西・戸山・八王子東を指定し、03年に国立・立川・青山を追加した。19年現在は７校。

（①イ）進学指導特別推進校―07年に小山台・駒場・新宿・町田・国分寺が指定され、後に国際（13年）・小松川（18年）が追加。

（①ウ）進学指導推進校―18年に多摩科学技術が理系の進学校として指定され、同校を含め現在は13校。三田・豊多摩・竹早・北園・墨田川・城東・武蔵野北・小金井北・江北・江戸川・日野台・調布北。

（②ア）中等教育学校―中学にあたる前期課程（３年）と高校にあたる後期課程（３年）があるが、後期課程からの募集はない。九段・桜修館・小石川・南多摩・立川国際・三鷹の６校である。九段が区立で他は都立。

（②イ）併設型中高一貫校―都立高の付属の形で中学を併設する。受験生は中学と高校の２回機会がある。都内初の白鴎付属中が、卒業時の11年に東大５名の現役合格者を出し注目された。現在は大泉・富士・白鴎・両国・武蔵の５校である。

94年以降は学校群で低下した都立高校の進学向上のため、都は思い切った策を打ち、その結果が注目される。

（次ページへ続く）

表１　日本のＰＩＳＡでの順位

年	2000	2003	2006	2009	2012	2015	2018
Ａ	8位	14位	15位	8位	4位	8位	15位
Ｂ	1位	6位	10位	9位	7位	5位	6位
Ｃ	2位	2位	6位	5位	4位	2位	5位

表2の出典
（ア）晶文社『東京都私立公立高校受験案内』
（イ）声の教育社『東京都受験案内』

表２　旧第六学区高校の難易度の変化（男子）

	両国	墨田川	小松川	江戸川	深川	本所	葛飾野	南葛飾
（ア）合格基準	2中	2下	3c	3c	3d	3d	3d	3d
（イ）偏差値	61	55	60	53	52	47	40	35

（注１）（ア）は1965年向け、（イ）は2018年向けである
（注２）（ア）は２が上～下３段階、３がａ～ｅの５段階

『花』武島羽衣と滝廉太郎

小木曽　清三

墨田区の愛唱歌である「花」を題材にした「すみだ花体操」の普及員として活動しています。『花』は滝廉太郎作曲、武島羽衣作詞で明治33年にできたものです。墨田区は平成8年に音楽都市を目指し、トリフォニーホール＆小澤征爾さん率いる新日本フィルを招いていますが、『花』は本格的組曲『四季』の一つです。

滝廉太郎作曲歌曲『四季』　明治33年11月

「花」　二部合唱　ピアノ伴奏　武島羽衣作詞

「納涼」　独唱　ピアノ伴奏　東(由比)くめ作詞

「月」　四部合唱　伴奏なし　滝廉太郎作詞

「雪」　四部合唱　オルガン・ピアノ伴奏　中村秋香作詞

羽衣の詞よりも、滝廉太郎の名曲として広く知られ、愛唱されている。歌曲の四季折々の風物を歌ったのであるが、その第一部にあたる「花」は隅田川堤の春の景観を歌ったもの。この墨堤の花見の遊山は江戸後期以来人々の楽しみであったが、明治になってもそれは引き継いで行われていたことが、当時の絵ハガキなどを見てもよく解る。羽衣の数多い作品の中で、今日でもなお歌い継がれている唯一の作品。

花

春のうららの隅田川
のぼりくだりの船人が
櫂のしづくも花と散る
ながめを何にたとふべき

見ずやあけぼの露浴びて
われにもの言ふ桜木を
見ずや夕ぐれ手をのべて
われさしまねく青柳を

錦おりなす長堤に
くるればのぼるおぼろ月
げに一刻も千金の
ながめを何にたとふべき

☆滝廉太郎

明治12年生まれ(東京芝区佐久間町)。富山尋常小学校に入学(父・吉弘の仕事上)するが、二年生で東京麹町小学校に転校。11歳(明治23年)のとき、大分県尋常師範学校小学校高等科一年に転校。15歳(明治27年)で上京、東京音楽学校に入学。この時、小山作之助の運営する「芝唱歌会」入会。19歳(明治31年)、東京音楽学校を卒業するとともに研究科に属す。20歳(明治32年)のとき、音楽学校ピアノ教授嘱託となる。21歳(明治33年)、「花」「荒城の月」発表。22歳(明治34年)のとき、ドイツ留学。

滝廉太郎の名は清廉潔白から名付けたというが、その通りの人だったようだ。

☆武島羽衣

名は又二郎。明治6年11月、東京日本橋に生まれる。直話によると父は俳諧を好み、芭蕉・蕪村・一茶などの句集をあまた蔵書していたところから幼にしてそれらを耽読。尋常中学に入ってからは、その国語の教師であった今泉定介の感化を受け、さらに高等中学に入るに及び落合直文、小中村義象等の影響を受けてその方面の研究に志し、明治29年帝国大学文科大学国文科を卒業。翌年、東京音楽学校並びに東京高等師範学校の教授となる。

1955年83歳のとき、教鞭をとっていた実践女子大学の同窓会で「花」の歌碑を建てたい！と本人が申し出たそうで、実践女子、日本女子、聖心女子の教え子350人が集まり、1956年11月3日、自筆の歌詞で建立された(隅田公園山谷堀)。

二男達夫氏は、千葉大名誉教授。

(前頁より)

3．高校の合格評価

高校が合格(入試)の学力(入試難易度)で評価されるときがある。難易度は別の名称(偏差値等)で表現されることもあり、固定したものでない。表2は一例だが、旧制中学系と男女系の差は少なくなりつつある。

夢を夢で終わらせない信用金庫
東京東信用金庫

間違いだらけの両国小学校史!?（一）

旧水路ラボ

Ⅰ　問題の所在

東京都墨田区両国四丁目には、都内有数の名門校(1)といわれ、芥川龍之介の母校(2)とされる墨田区立両国小学校がある。長い歴史の中では、成績優良校として大正天皇(当時皇太子)が視察に訪れたこともあった(3)といい、二〇一五(平成二七)年には、開校一四〇周年の記念式典が執り行われている(4)。

しかしながら、これまで語られてきた、こういった両国小学校の「歴史」は、必ずしも自明のものであるとは言えない。次号以降で見ていくように、両国小学校の沿革に関しては様々な情報が錯綜しており、互いに矛盾するものも少なくないのである。両国小学校は、本当に芥川の母校であり、間違いなく一四〇年以上の歴史を有する伝統校なのだろうか。

これらの諸点を解明することは、「名門」であることを誇りにしている在校生や卒業生らにとって、決して小さくない意味を持つはずである。そういった人々にとってはアイデンティティに関わり得る問題だからである。

また、両国小学校が芥川の出身校だと説明している墨田区教育委員会(5)や墨田区観光協会(6)、そして、芥川研究者にとっては、見解の修正を迫られる可能性を孕む問題でもある。

両国小学校の沿革に関する錯綜した諸記述を検証し、何が事実なのかを確認するには、当時の行政文書・資料や新聞記事など、様々な証拠を集める必要があるだろう。特に、固く信じられてきた「史実」に異議を唱える場合は尚更である。

この連載では、主としてそういった同時代史料に基づき、明治期から大正期にかけて、両国小学校の前身とされる学校の名称が移り変わっていく過程を追いながら、両国小学校史の基礎部分の再構築を試みたい。(次号へ続く)

(1) 記念誌編さん委員会編『墨田区立両国小学校創立九五周年記念誌　本所の四季』(墨田区立両国小学校、一九七〇年)一一五頁参照。
(2) 関口安義編『芥川龍之介新辞典』(翰林書房、二〇〇三年)二〇一頁(関口安義執筆)、山梨県立文学館編『生誕百年記念　芥川龍之介展』(山梨県立文学館、一九九二年)一五頁、鷺只雄編『年表　作家読本　芥川龍之介(新装版)』(河出書房新社、二〇一七年)一九、二三、二六頁、神田由美子「芥川文学に描かれた本所両国」墨田区教育委員会事務局生涯学習課文化財担当編『芥川龍之介―こころのふるさとは本所両国―』(墨田区教育委員会事務局生涯学習課文化財担当、二〇一三年)八六頁等。
(3) 百四十周年記念誌委員会編『開校百四十周年記念誌』(墨田区立両国小学校、二〇一五年)一五頁。
(4) 同右一一頁。
(5) 墨田区教育委員会が両国三丁目二二番一一号付近に設置している「芥川龍之介成育の地」の解説板には、芥川が通った小学校が現在の両国小学校であると明記されている。前掲註(2)『芥川龍之介―こころのふるさとは本所両国―』一頁、墨田区教育委員会『すみだの史跡文化財散歩』(墨田区教育委員会生涯学習課文化財担当、二〇〇六年)一〇六頁も同旨。
(6) たとえば、同協会のホームページ内にある「芥川龍之介の文学碑」解説ページ参照。

相撲甚句

青木　忠夫

研究というより楽しんでいるということで発表をさせていただいた。

歌詞は都都逸と同じ7・7・7・5の甚句形式、土俵上で5人から7人の輪になって、中央に1人が出て独唱する。周囲の力士たちは、手拍子と「どすこい」「ほい」「あ～どすこいどすこい」といったような合いの手を入れる。

（江戸の花）

アーア～　アーア～
アー　ア～アアエー
ままになるなら　横綱張らせヨー
ア～ア～　ア～ア～
まわしの模様は隅田川
百本杭には都鳥
東雲鴉が二羽三羽
かすかに見えるは富士の山
「ストトコトンと」打ち出す太鼓は
向こう両国国技館
明日は初日のことなれば
主さんと地取りがヨーホホイー
アー　アアアアー
してみたいヨー

相撲教習所の教養科目として必須科目に取り入れられている。幕下以下の力士であっても甚句を披露する際は大銀杏を結うことが許される。起源発祥について定説はないが、享保年間には流行歌として歌われていたとみられる。有名なものは（花づくし）（山づくし）（出世かがみ）がある。そして「ごあいさつ」で締めくくる。とにかく歌いやすく覚えやすい。日本人の根底にある音階でできているからだと思うが、私も仲間と健康のためにも楽しんで今も毎日歌っている。

【編集後記】

新型コロナウィルス感染症に関し、令和2年4月7日、東京都を含む7都府県に対し、国から「緊急事態宣言」が出されました。このような状況を踏まえ、史談会第32回定期総会を延期といたしました。会員の皆様には、十分に健康にご留意いただくとともに、感染拡大の防止に向けた取り組みをお願い申し上げます。

すみだ史談五十五号
令和二年四月二四日　印刷発行
墨田区吾妻橋一―二三―二〇
教育委員会文化財内
発行人　小木曽　清三